

エコユニット活動報告書 (2015.4~2016.3)

<エコユニット情報>

ユニット名	エコてく。KCT		ユニット No.	10010030
構成人数	全 体 (※1)	18	所属する エコビープル	
母体となる組織 (※2)	企業 (団体) 名	株式会社ナレッジクリエーションテクノロジー		
	事業概要	情報通信サービス業		
ホームページ	URL	http://www.jpckt.com/		

★活動報告 (1)	
【活動名称・タイトル】	
福島被災地復興支援	
【活動の時期・期間】	
2015年11月27日(金)から28日(土)	
【活動内容と成果】	
<p>東京商工会議所が主催している被災地支援のボランティア活動に参加した。(全参加者 27 人。弊社から 3 人参加) 福島県南相馬市小高地区にて、2 日間に渡り、帰還予定者の居住地の復興作業を支援した。同地区は、警戒区域が解除され、除染作業や帰還予定者の居住地の復興作業などの支援が必要とされている地域である。</p> <p>同ボランティア活動の今回の作業実施内容としては、帰還予定者の要望により、敷地内の指定された樹木や草木の伐採を行うといった居住地の復興作業であった。</p> <p>芝刈り機やチェーンソーといった重機を利用し、広い敷地を少しずつ整備していった。また、幹が太い木などは、複数人にてロープを引きながら切込みを入れるなどの工夫をしながら、伐採を行った。重機を扱っての作業以外にも、伐採した草木を集荷場所まで運ぶことや、作業により排出したゴミの片付けなど、各自が出来ることを出来る範囲で行い、対象となった敷地の整備が完了した。</p> <p>被災地復興支援といえども色々な形があるが、より被災者の生活に密着した形での復興支援に参加でき、有意義な経験となったと考える。今後とも、異なった形であるかもしれないが、被災地復興へと携わっていかうという意識が芽生えた。</p>	
【期待する活動の効果】	
<ul style="list-style-type: none"> ・被災地の復興支援 ・社員の被災地(復興)への関心向上 	
【現状の課題とその解決に向けた今後の取り組み】	
<p>東北に何日間か滞在して行う活動であるため、休日の調整と費用負担から参加調整が難しく、参加人数がしぼられてしまう。そのため、現地に行かない形でも取り組み可能な被災地復興支援を模索し、実施するといった形で、より多くの社員がかかわれるようにする。また、会社として参加しやすい仕組みを作り、同ボランティア活動への参加を継続する。</p>	
【ホームページ】	
http://www.tokyo-cci.or.jp/page.jsp?id=72184	

▲活動報告 (2)	
【活動名称・タイトル】	
語り部 の活動 (特定非営利活動法人 地球緑化センター(エコ語り部チーム)の活動)	
【活動の時期・期間】	

2011年10月～現在
【活動内容と成果】 当社エコ活動のチーム「エコてく。」の参加メンバーが、地球緑化センターのエコ語り部チームに参加、支援を継続的に 行っています。 参加人数:7人 活動内容: 以下 2015年度の活動実績一部抜粋 ・環境紙芝居の作成 ・エコイベントでの実施内容について話し合い
【期待する活動の効果】 企業、学校、NPO、地域コミュニティとの協働による継続的な環境教育を通じた地域社会への貢献と、社員一人ひとりが会社生活とは異なる形で社会とのつながりを持ち、社会的な課題への関心を高めていくことを目的としています。
【現状の課題とその解決に向けた今後の取り組み】 休日などを使用した地域ボランティアとなり、任意参加のため参加者数が一定にならず、参加者が集まりにくい回もある。このため、会社としても、前日に再度周知するなど参加しやすい環境づくりを検討していく必要がある。
【ホームページ】 http://www.n-gec.org/activities/midori-school.html#content03

▲活動報告 (3)	
【活動名称・タイトル】	
オフィスのエコ活動	
【活動の時期・期間】	
2014年1月～現在	
【活動内容と成果】	
クリーンオフィス、グリーンオフィスを社員一人ひとりが実践する。活動内容は、以下の通り。 ・本社メンバーによる、ペーパーレス化の実施。 ・紙コップを使用しない。 ・コピー用紙を使用しないで、PDF化。 ・社内用書類の印刷簡素化(縮小印刷等) ・使用したコピー用紙の再利用。 ・観葉植物設置(職場内緑化)。 ・離籍時のPCOFF対応(節電)。 ・ISO14001の取り組みに沿った、活動の可視化。	
【期待する活動の効果】	
・紙使用量の削減(森林伐採削減) ・消費電力の削減(発電量減少) ・目の保養(健康増進)	
【現状の課題とその解決に向けた今後の取り組み】	
本社勤務、現場勤務と勤務地に違いがあるため、全てのエコてく。メンバーに浸透していない。今後は、各現場にエコてく。サブリーダー(現場リーダー)を設け、本社勤務メンバー同様の運用とする。	

▲活動報告 (4)	
【活動名称・タイトル】	

エコピープルを増やすための活動（eco検定普及活動）

【活動の時期・期間】

エコピープル活動(加入時期)から継続的に実施

【活動内容と成果】

当社エコ活動のチーム「エコてく。」の参加メンバーは、2016年4月時点で11名になります。メンバーは、eco検定を含む環境に関連する資格試験の取得による、環境学習を積極的に行えるよう、該当資格の取得に補助や人事考課のプラス評価などの仕組みを取り入れ、「エコてく。」メンバーが主体的に向学心を持てるように取り組んでいる。(現在、5名がeco検定を合格)

【期待する活動の効果】

環境に関する知識の醸成と、そこから当社の掲げるエコ活動への動機づけと日常生活におけるエコへの意識の向上とエコエバンジェリストとなることを期待している。

【現状の課題とその解決に向けた今後の取り組みについて】

資格試験取得者が活動メンバーに対し低い状況である。資格取得しやすい環境作りが、会社全体で行われる必要がある。また、資格試験に合格するだけでなく、継続的な学習として、世界自然遺産の見学やエコツーリズムなどに参加することで、発展的学習を図ってゆきたい。

★来年の計画や活動テーマ、抱負。

上記活動を継続的に行うとともに、1.地域ボランティア(貢献する) 2.環境に関する教育(広める) 3.環境に関する知識の醸成(学ぶ) 4.グリーンオフィスを推進(実践する) 5.個人で実践する の5つの活動分野を深化させ、特に地域ボランティアでは、社員参加型の活動(珊瑚苗作り活動)など、社員の環境活動への動機づけや気付きなどを醸成してゆく。